



瀬戸内海クルーズ推進会議

(第3回全体会議)

令和元年11月12日



1. 瀬戸内海クルーズ推進会議による誘致活動報告
2. クルーズ船の情報収集活動
3. アクションプランの状況報告
4. 参考資料



瀬戸内海クルーズ推進会議の目的と体制(5月31日合同会議資料)



設立の目的(「瀬戸内海クルーズ推進会議」規約第2条)

○我が国におけるクルーズが進展しつつある中、瀬戸内海や瀬戸内海を囲む諸港、諸地域において、瀬戸内海独自の魅力、特色を活かした独自のクルーズ振興を図り、瀬戸内海が世界的に知名度の高い「エーゲ海」や「カリブ海」等に並ぶブランド力の高いクルーズの海^(※)となることを目指し、また、その取組みを通じて当該海域・地域の振興を図るとともに世界に誇れる主要な観光圏としての地位向上を目的に設立。

※「明日の日本を支える観光ビジョンー世界が訪れたくなる日本へー(平成28年3月20日)」での施策集において“日本の各地をカジュアルからラグジュアリーまで幅広く対応したクルーズディステーションに～瀬戸内と南西諸島を日本のエーゲ海・カリブ海に～”との言及もあり。

推進会議の体制(「瀬戸内海クルーズ推進会議」規約第11条、12条、13条)

○瀬戸内海クルーズ推進会議は、重要港湾以上の港湾管理者を兼ねる地方自治体、民間団体、国の機関から構成される『全体会議』及び近畿・中国・四国・九州の各エリアに関する構成員から構成される『エリア会議』から構成。

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

瀬戸内海クルーズ推進会議 代表: 苅田中国経済連合会会長(中国電力会長)、副代表: 千葉四国経済連合会会長(四国電力会長)

■合同会議(全体会議+エリア会議)
第1回(5月31日)

全体会議

総括事務局: 中国地方整備局(港湾空港部)
事務局: 近畿地方整備局、四国地方整備局、九州地方整備局(各港湾空港部)

【メンバー】

- ・重要港湾以上の港湾管理者をかねる地方自治体
- ・広域的活動する民間団体等
- ・国の機関(各地方整備局・運輸局)

【役割・取組内容】

- ・瀬戸内海の全体の課題整理
- ・瀬戸内海全体におけるクルーズ振興方策の検討
- ・クルーズ振興に関する取組みの実行及び全体の取組の進捗管理

開催日

- 第1回(12月13日)
- 第2回(5月23日)
- 第3回(11月12日)

情報共有 ⇄ 提案・報告

エリア会議

【メンバー】

- ・各エリアの重要港湾以上の港湾管理者をかねる地方自治体
- ・各エリアの民間団体等
- ・各エリアの地方自治体
- ・各エリアの国の機関(各地方整備局・運輸局)

【役割・取組内容】

- ・各エリアの課題整理
- ・各エリアのクルーズ振興方策の検討
- ・クルーズ振興に関する取組みの実行及びエリアの取組の進捗管理

近畿エリア会議

事務局: 近畿地方整備局
(港湾空港部)

開催日: 第1回(3月26日)

中国エリア会議

事務局: 中国地方整備局
(港湾空港部)

開催日: 第1回(2月7日)
第2回(3月25日)

四国エリア会議

事務局: 四国地方整備局
(港湾空港部)

開催日: 第1回(2月25日)

九州エリア会議

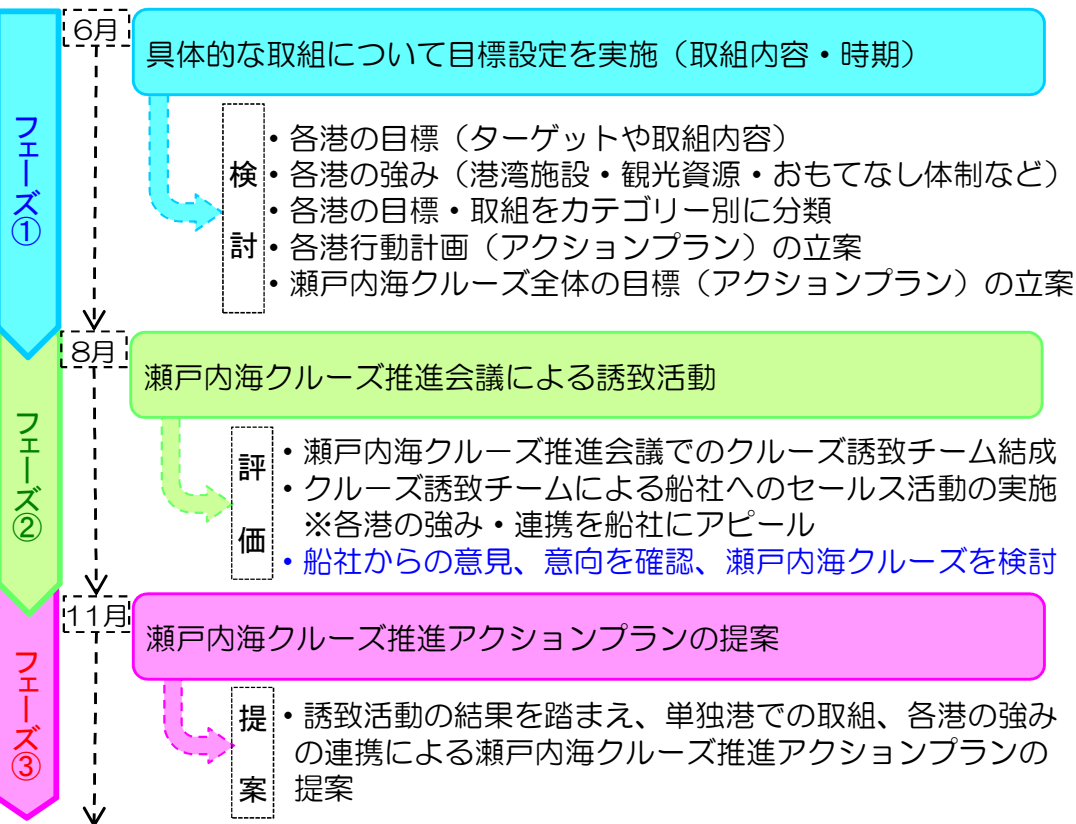
事務局: 九州地方整備局
(港湾空港部)

開催日: 第1回(2月15日)

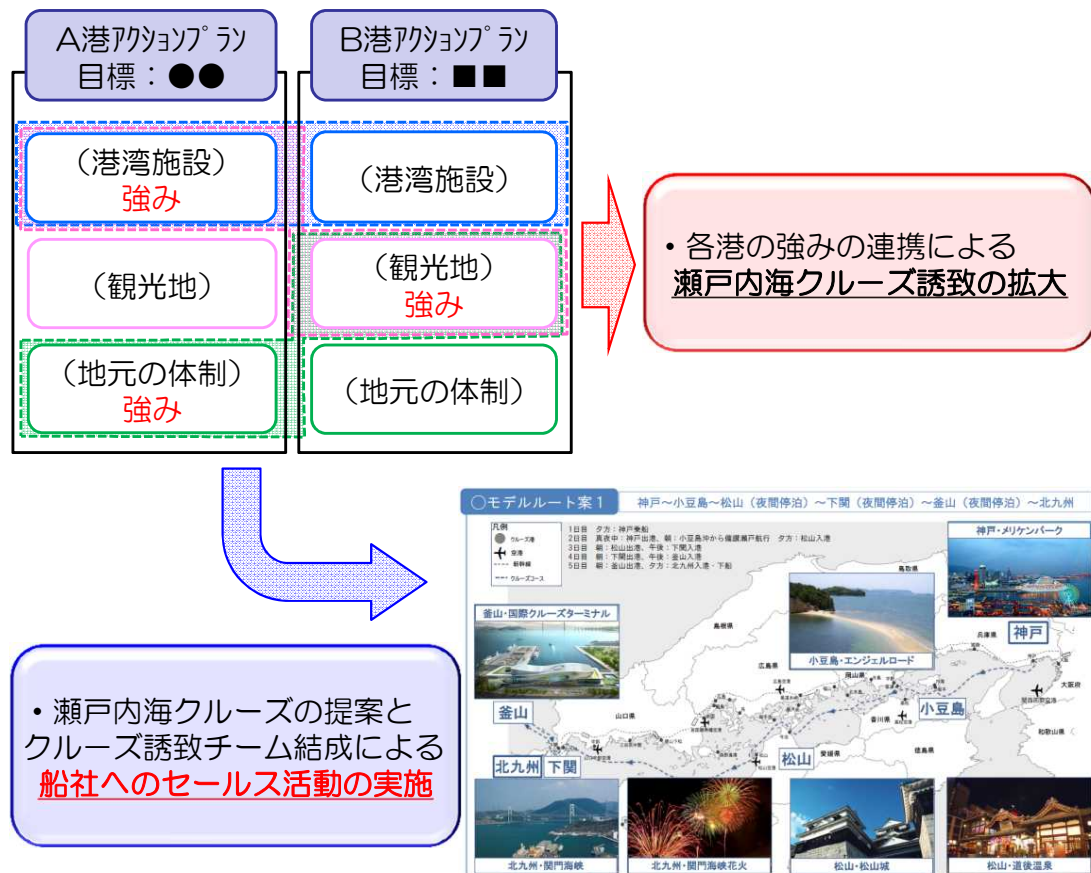
瀬戸内海クルーズ推進会議の今後の進め方(5月31日合同会議資料)

- ◆各港での目標・取組をとりまとめ、瀬戸内海クルーズ推進アクションプランを作成
※エリア会議などでの意見交換等も実施しブラッシュアップ。
- ◆各港での具体的な取組における強み・弱みの相互補完の可能性の検討。また各港や観光地の連携により相乗効果を発揮する観光プラン・モデルルートを検討。(下記の連携イメージを参照)。
※瀬戸内海を囲む近畿・中国・四国・九州が一同に会した瀬戸内海クルーズ推進会議の場を最大限活用することで連携強化を図る。
- ◆『瀬戸内海クルーズ推進会議シンポジウム』を開催予定。

各港アクションプラン作成による進め方



連携のイメージとクルーズモデルルート





1. 瀬戸内海クルーズ推進会議による誘致活動



クルーズ船社への誘致活動報告



○瀬戸内海クルーズ推進会議として、9月13日（金）、9月26日（木）～27日（金）の計3日間でクルーズ船社5社への誘致活動を実施。

《誘致期間中、参加自治体19により15港を紹介》

近畿エリア：4港への誘致活動を実施（参加自治体数5）

中国エリア：5港への誘致活動を実施（参加自治体数6）

四国エリア：3港への誘致活動を実施（参加自治体数4）

九州エリア：3港への誘致活動を実施（参加自治体数4）

実施日	クルーズ船社	相手方	参加自治体とPR港		
9/13 (金)	A社	支社長 営業部長 アソシエイトマネージャー	九州エリア 中国エリア	佐伯港 広島港 尾道系崎港 福山港	佐伯市 広島県 広島県 広島県
	B社	支社長	近畿エリア 中国エリア	堺泉北港 姫路港 和歌山下津港 尾道系崎港 松山港 宇和島港	大阪府、堺市 兵庫県 和歌山県 尾道市 愛媛県、松山市 愛媛県、宇和島市
9/13 (金)	C社	日本地区セールスマネージャー	近畿エリア 中国エリア 四国エリア	堺泉北港 姫路港 和歌山下津港 尾道系崎港 松山港 宇和島港	大阪府、堺市 兵庫県 和歌山県 尾道市 愛媛県、松山市 愛媛県、宇和島市
9/26 (木)			近畿エリア 中国エリア 九州エリア	大阪港 宇野港 下関港 別府港	大阪市 岡山県、玉野市 下関市 別府市
9/26 (木)	D社	営業グループ次長	近畿エリア 中国エリア 四国エリア	大阪港 堺泉北港 和歌山下津港 宇野港 呉港 尾道系崎港 新居浜港	大阪市 大阪府 和歌山県 岡山県、玉野市 呉市 三原市 新居浜港務局
9/27 (金)	E社	ビジネス開発プロモーター	近畿エリア 中国エリア 四国エリア 九州エリア	堺泉北港 和歌山下津港 宇野港 尾道系崎港 松山港 宇和島港 新居浜港 下関港 別府港	大阪府 和歌山県 岡山県、玉野市 尾道市 愛媛県、松山市 愛媛県、宇和島市 愛媛県、新居浜港務局 下関市 大分県、別府市

クルーズ船社からの主な意見

- 今後さらに発着地の多様化を検討する。
- テーマ性を持たせて寄港地を結ぶ連携したコース提案をして欲しい（※単発港で情報を挙げてても本社には届かない）。
- どのエリアにどのような国宝があるのか分かる資料を提供して欲しい（※外国人には国宝が響く）。
- 寄港地決定に一番効果的な方法は本部の寄港地決定権者を招聘して現地を見せること。英語による動画作成も効果的。
- イベント・食など地場の特性を活かしたものを提案頂くと有難い。
- 寄港地で食材を仕入れたいときのサポート体制を確立して欲しい。
- 瀬戸内海でも小型船でしか行けない離島周遊コースの造成を図りたい。



9月13日（金）
C社への誘致活動



9月27日（金）
E社への誘致活動



【参考①】クルーズ船社からの主な意見



実施日	クルーズ船社	参加自治体		船社からの主な意見
9月13日 (金)	A社 (先方) ・支社長 ・営業部長 ・アシスタントマネージャー	九州エリア 中国エリア	佐伯市 広島県	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 減価償却も控えた船もあり、確定はしていないが、2022年までには、配置替えにより、9~10万トン級のクルーズ船が配船される可能性が高い。 ➤ 当社は、日本海クルーズ（発着：舞鶴港、金沢港、博多港）、太平洋クルーズ（発着：東京港）を実施。2020年に沖縄発着の3泊4日クルーズの新規航路就航を予定。今後さらに発着地の多様化を検討する。 ➤ 広島空港と広島港の距離が離れているので、海外のフライ&クルーズ拠点空港（シアトル・タコマ国際空港）のように荷物の預かりサービスがあると非常に良い。日本の空港で、このようなサービスが導入された実績はないため、これが出来れば本格的なフライ&クルーズの開始といえるかもしれない。
	B社 (先方) ・支社長	近畿エリア 中国エリア 四国エリア	大阪府 堺市 兵庫県 和歌山県 尾道市 愛媛県 松山市 宇和島市	<ul style="list-style-type: none"> ➤ テーマ性を持たせて寄港地を結ぶ連携したコース提案をするのが良い（※単発港で情報をあげても本社には届かない）。 ➤ 当社のクルーズは、毎年ほぼ同じパターン、神戸入れ替えて高松、宇野、広島、門司、別府、萩、境港など回るルートで、集客も高く、お客様から評価を受けている。 ➤ 瀬戸内海クルーズは進めたいが、今あるツアーから寄港地を変えていくことが難しく、コースを変えていく必要がある。 ➤ 今治に到着して、お客様に自転車でしまなみ海道を渡してもらい、夕方に尾道で船に乗船してもらうというプランは斬新で良い。 ➤ 当社のクルーズだからできるというクルーズプランが欲しい。
	C社 (先方) ・日本地区セールスマネージャー	近畿エリア 中国エリア 四国エリア	大阪府 堺市 兵庫県 和歌山県 尾道市 愛媛県 松山市 宇和島市	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 当社のクルーズ船は、毎年1~3月頃にワールドツアーに出ており、同航海の中で毎年3月~5月頃に日本に寄港（九州・関西・中国・四国の各エリア1港程度に寄港）し、清水港、東京港、小樽港を抜けていくルートを通っている。 ➤ 配船計画がゼロベースなのは2024年以降。2024年であれば今後半年以内にセールスをかけてもらうと有難い。 ➤ 寄港地決定はモナコで2~3名で行っている。 ➤ 寄港地決定に一番効果的な方法は本部の寄港地決定権者を招聘して現地を見せること。英語による動画作成も効果的。 ➤ 2020年に就航予定のクルーズ船があり、各港で入港セレモニーが開催される状態になりそうである。入港セレモニーも良いが、乗客が船に戻ってきた際にイベントをしてくれる方が有難いかもしれない。 ➤ 2020年8月に新宮港に寄港予定。エクスカージョンは既に公表されているが、より良い追加観光地があれば本部担当者に押し込んでいきたい。魅力的な観光地があれば紹介して欲しい。



【参考②】クルーズ船社からの主な意見



実施日	クルーズ船社	参加自治体		船社からの主な意見
9月26日 (木)	D社 (先方) ・営業グループ次長	近畿エリア 中国エリア 四国エリア	大阪市 和歌山県 岡山県 玉野市 呉市 三原市 新居浜港務局	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 当社の乗客はツインベースで400名程度（日本人がメイン）。機動力を活かしたクルーズを得意としており、小さな島にも行くことができる。<u>各港から提案頂く視点として、イベントや食など地場の特性を活かしたものを提案頂くこと有難い。</u> ➤ ヘリコプターの周遊（北海道羅臼、下関で実施）は何れも希望者が殺到、40名規模で回したが、50～60名の規模があると有難い。 ➤ <u>食材を入れる際に、県等が仲介に入って業者の紹介などとして欲しい。</u> ➤ お祭りなどの<u>イベントの日時が通年で決まっていれば寄港を検討するのに候補となりやすい。</u>
	C社 (先方) ・日本地区セールスマネージャー	近畿エリア 中国エリア 九州エリア	大阪市 岡山県 玉野市 下関市 別府市	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 桜をコンテンツとしてツアーを組むのは時期が合わなくて難しい。年中いけるコンテンツが有り、その上でお花見をコンテンツとしてプラスアルファとして考えるぐらいの方が良い。 ➤ 一つのツアーの人数としては20名程度の者が良い。 ➤ <u>観光農園などは外国人に受けが良い。</u> ➤ 当社のクルーズの客層は高齢者が多く、ツアーなどでもバスに乗っていただけるのは1時間が限界。<u>1時間おきには降りて観光できる必要がある。</u> ➤ また寄港地から離れた観光地に行って戻る行程は望ましくない。例えば下関で下船して、市内の観光や体験を楽しんだあと、元乃隅神社や萩に行き、船をそちら側にまわして乗船して頂くなどの検討が必要。 ➤ 外国人客には重要文化財は今ひとつ心に響かない、<u>外国人は分からない土地でも国宝であれば行って見たいくなる。</u>どのエリアにこういった国宝があるのか国宝マップのようなものを提供して欲しい。 ➤ 港での出張販売はやめた方が良く、せっかくの良い品であっても安っぽく見えるし、客は買わない。<u>実際に現地に足を運んで買ってもらうような取組の方が良い。</u>
9月27日 (金)	E社 (先方) ・ビジネスホテルプロパティマネージャー	近畿エリア 中国エリア 四国エリア 九州エリア	大阪府 和歌山県 岡山県 玉野市 尾道市 愛媛県 松山市 宇和島市 新居浜港務局 下関市 大分県 別府市	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 今年度、日本初寄港のクルーズ船があり、船長は大変と思うが各港での初寄港の歓迎は有難い。 ➤ 当社としては<u>体験型観光の次に重要と思っているのが、寄港地での食材とお酒と考えている。</u> ➤ 寄港地毎で地元の食材を使った食事の提供などが出来ないかと考えている。当社のクルーズ船は夕方に外向するケースが多いが、船上で夜景を楽しんでもらいながらご当地の食材を使った食事を楽しんでもらう等していきたい。 ➤ <u>寄港地で食材を仕入れたいと思ったときのサポート体制を確立して欲しい。</u> ➤ 当社としては今後、瀬戸内海に一番力を入れる予定。まだ<u>瀬戸内海の島嶼部のコンテンツをうまく取り込めていないのが現状。沖縄では小型船でしか行けない離島周遊コースが人気で有り、瀬戸内海でも同様なツアーを造成したい。</u>



2. クルーズ船の情報収集活動

○10月8日(火)～9日(水)に東京虎ノ門で開催されたクルーズ・ポートセミナー(主催:みなと総研)に出席。
 ○クルーズ誘致に関する最新情報と、経済効果を上げるためのクルーズ振興方策について情報収集を実施。併せてセミナー内で、瀬戸内海クルーズ推進会議の取組を紹介。

【セミナーの目的】

港湾管理者や地方自治体・振興団体関係者、その他区クルーズ業務に携わる関係者が、クルーズ船寄港に対応した港湾の在り方やクルーズ船誘致等のクルーズに関する知識や最新のクルーズ事情などの総合的な知見を短期間に取得することを目的に、みなと総合研究財団及びクルーズポート・マスター制度運営委員会が企画。

【今回のセミナー参加者】

《講師・パネリスト等》(一財)みなと総研、国土交通省港湾局、(一社)日本外航客船協会、商船三井客船(株)、静岡県、横浜市、室蘭市、郵船クルーズ(株)、(株)カーニバル・ジャパン
 《セミナー参加者》中国地整、福島県、静岡県、大阪府、山口県、高知県、熊本県、大船渡市、横浜市、館山市、高岡市、富士市、牧之原市、蒲郡市、**大阪市**、**神戸市**、**姫路市**、境港管理組合、**北九州市**、日南市
 《その他》鳥取港振興会、(株)KOI企画、東京港埠頭(株)、(株)東京レポーター、清水港客船誘致委員会、(株)東京臨海ホールディングス、(株)クルーズ・フロンティア、金沢港振興協会、内外サービス(株)、(株)東京ビッグサイト、東洋建設(株)、(株)梓設計、(株)エコー、東京建物(株)

2019クルーズポート・セミナープログラム

【1日目】

◆クルーズ振興に向けた国の取組と今後

講師：一般社団法人みなと総合研究財団 理事長 山縣信彦

◆クルーズの歴史と現状、将来展望

講師：国土交通省港湾局産業港湾課 クルーズ振興室長 林健太郎

◆クルーズ産業～業界の仕組みと実際～

講師：一般社団法人日本外航客船協会 副会長 山口直彦

◆パネルディスカッション

「クルーズ船誘致の第2フェーズを考える」

【2日目】

◆クルーズ船誘致と受け入れの基本

講師：一般社団法人みなと総合研究財団 クルーズ総合研究所 副所長 沖田一弘

◆クルーズ船の安全な入出港とセキュリティ対策

講師：郵船クルーズ株式会社 特別顧問 中村大輔

◆いま求められる港湾整備～クルーズ拠点港湾を事例として～

講師：清水港(静岡県港湾局 都築直哉)
 横浜港(横浜市港湾局 萩原浩二)

◆ワークショップ

「クルーズ船寄港の経済効果を高めるためには」

◆修了試験



◆パネルディスカッション「クルーズ船誘致の第2フェーズを考える」

<パネリスト>

- 横浜市港湾局みなとにぎわい振興部客船事業推進課 荻原課長：客船の誘致、受入、管理、SOLAS業務を担当。
- 室蘭市港湾部港湾政策課 西館主幹：北海道庁からH22に港湾部へ異動、フェリー、バルク、クルーズの誘致関係を担当。
- 郵船クルーズ株式会社 村山運航部長
- 株式会社カーニバル・ジャパン プリンセスクルーズ総合研究所 船木副所長

<コーディネーター>

- みなと総研 沖田副所長

パネリスト	主な発言
西館氏	<ul style="list-style-type: none"> クルーズ船の寄港は、街の生きがい対策と考えるべき。発表する場がないバンドや地元の踊りのチームが披露する場である。 室蘭では、ループバスは有料、1000円/人となっている。(広島は無料)
村山市	<ul style="list-style-type: none"> おもてなしのイベントは、寄港回数が多くなると負担が大きくなりすぎる。メリハリが必要。初寄港は良い。 タクシー、規制があり、営業できる地域、できない地域があり、隣町ではタクシーが余っているのに、確保できない場合がある。 最近では、そば打ち体験など、体験を求められるお客様が多い。 函館では、地元学生がボランティアガイドをしているが、今度は船に学生が乗り込んで、地元を紹介するという取組を行う。
船木氏	<ul style="list-style-type: none"> 誘致活動は、ランドオペレーターに現地を見てもらうのが一番良い。 タクシーの規制緩和も重要。

第17期 スマート・クルーズ・アカデミー 2019年第2弾

Celebrity X Cruises® 3泊4日 「Celebrityミレニアム」
9/24-27 広島発舞鶴着

大阪大学国際公共政策研究科赤井研究室・クルーズ活性化会議ジョイントクルーズ体験企画



全長	294m	乗客定員	2,158名	船籍	マルタ
全幅	32m	乗組員数	999名	デッキ	12層
総トン数	91,000トン	就航年	2000年	巡航速度	24.0ノット

スマート・クルーズ・アカデミーの趣旨

★学生の論理的思考向上の場

船上でしか味わえない、見渡す限り何も無く、それぞれが集中してやりたいことに打ち込める洋上の素晴らしい環境で、国際関係や地域発展についての社会課題について議論し、船内、寄港地にて国際感覚のより一段の向上を図る。

★クルーズ振興に向けた新たなマーケットニーズ構築の場

大学生がクルーズを体験し、若い世代からの視点で、将来のクルーズマーケットを熟成する。体験を踏まえて、日本の港湾戦略、寄港地の分析、日本の観光のあり方を議論し、自由に事業・政策提案する。

スケジュール

日	月日	寄港地	入港	出港	食事	宿泊
1	9/22 (日)	横浜 (大さん橋)		17:00	🍴🍷	船中泊
2	9/23 (月)	終日クルーズ			🍴🍷🍷	船中泊
3	9/24 (火)	広島	8:00	17:00	🍴🍷🍷	船中泊
4	9/25 (水)	関門海峡クルーズ			🍴🍷🍷	船中泊
		北九州	10:00	22:00	🍴🍷🍷	船中泊
5	9/26 (木)	釜山 [韓国]	07:00	14:00	🍴🍷🍷	船中泊
6	9/27 (金)	舞鶴 (京都)	10:30	23:00	🍴🍷🍷	船中泊
7	9/28 (土)	金沢	8:00	17:00	🍴🍷🍷	舞鶴泊

アカデミー
実施区間

報告者 (事務局)
◆中国経済連合会

調査役 齊藤隆治

◆中国地方整備局港湾空港部
クルーズ推進・港湾物流企画室

係長 鶴岡俊英





3. アクションプランの状況報告

瀬戸内海クルーズ推進アクションプランの作成

各港のアクションプラン（「港別」の具体的な取組）

- 岸壁諸元
- 誘致目標（隻数、ターゲットとする客船）
- 背後観光コンテンツ
- 目標達成のための課題・解決策など



瀬戸内海クルーズ推進アクションプランの策定

【策定の目的】

瀬戸内海を囲む近畿・中国・四国・九州の関連自治体がこれまで以上に連携し、『広域連携による瀬戸内海クルーズのブランド力の向上』を目指し、その取組を通じ「瀬戸内海全体でのクルーズの活性化」、「おもてなし等による地域のつながりの創出」、「地域観光消費の増加」を図ることを目的に策定。

【アクションプランの内容】

- 今後の行動計画

クルーズ船社への誘致活動に用いる「瀬戸内海クルーズガイド」を作成

瀬戸内海クルーズガイド及びPR動画の作成

- ◆ 各港ガイドの作成
 - ・ 岸壁諸元
 - ・ 観光コンテンツ
 - ・ 四季の見所・イベント一覧などを掲載
- ◆ 瀬戸内海の“おすすめクルーズプラン”の提案
 - ※各港ガイドから作成した瀬戸内海の港を結んだプランとして作成。などを掲載。



広域連携による戦略的な誘致活動の実施

○クルーズ船社への誘致活動に加え、クルーズ船社、ランドオペレーター等の招聘活動の実施。

※瀬戸内海を更に活かしたクルーズプラン構築や瀬戸内海沿岸の観光コンテンツをさらに把握したいと考えている社)を招聘。

※瀬戸内海クルーズ推進会議の構成員によるプレゼンを実施(併せて希望する社に対して現地視察を実施)。

魅力的なクルーズプランの提案

○瀬戸内海クルーズ推進会議として連携した“おすすめクルーズプラン”の提案。

※クルーズプラン作成のためのチームづくりを実施。

※誘致活動などで得られたクルーズ船社の要望などを踏まえ、瀬戸内海クルーズプランを何パターンか作成。今後の誘致活動、シートレードなどで船社側に提案。

戦略的な情報発信

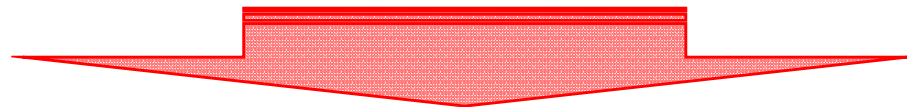
○船社向けの瀬戸内海クルーズPR動画の作成・更新。

※まずは各自治体で保有している観光PR動画などを再編し、瀬戸内海クルーズ用に作成。

○瀬戸内海クルーズガイドの作成・更新。

○瀬戸内海クルーズ推進会議によるシートレードグローバル(マイアミ)への参加。

※瀬戸内海クルーズガイドとPR動画を活用したクルーズ船社へのアピール。



【目指すべき将来像】

広域連携による瀬戸内海クルーズのブランド力の向上
(瀬戸内海クルーズ800隻時代を見据えて)